

今年度の研究構造図

学校教育目標

『家庭や地域と連携・協働して子どもを育てる』

めざす子ども像

- 自ら進んで学ぶ子ども
 - ◇子どもの「やってみよう！」を引き出す
- 互いを認め合い、自分と相手を大事にする子ども
 - ◇人それぞれの特性を認め、尊重する態度を育成する
- 健康や安全に気を付ける子ども
 - ◇健康や安全に対する関心を高め、体を動かす心地よさを実感させる

児童の実態

- ・少人数で交流すると考えを表現できる子が増えた。全体の場での発表は一部の児童に限られる。
- ・学習の流れは定着してきたが、主体的に考え、追求する意欲が見られない児童が多い。

研究主題

『自分らしさを生かし、ともに学ぼうとする子どもの育成』
～表現し、学びを広げる授業づくりの工夫を通して～

仮説1：子どもが主体となるような学習場面を工夫することによって、一人一人が自分の学びを表現し、意欲的・主体的に課題を追究する力を育むことができるだろう。

仮説2：協働的に学習するために柔軟な場の設定や時間の保障をすることによって、他者とともに学んだり、深めたりしていく力を育むことができるだろう。

子どもが主体となる授業

主体的な学びにつながる学習場面の工夫

- 児童の興味・関心を引く導入の工夫や学習の展開
- 学習課題（めあて）の設定と解決の見通し
- 見通しをもち、予想、追究していく学習展開

やってみよう！ どうやってやろう？
こんな風に考えたらできそうだ！

一人一人が学びを表現できる工夫

個別の学び

- 自分の学びに合った資料の選択（自力解決の方法）
自己選択・自己決定
- 課題やまとめ方に多様性をもち、自分に合った方法で表現することができる場や方法の設定
 - ・子ども達が、明確なめあてや問題意識をもてるようになる工夫と日々の積み重ね
 - ・子ども達が、問題解決の具体的な見通しをもてるようになる工夫と日々の積み重ね

自分らしさを生かす

協働の学びにつながる工夫

- 友達との関わりを通して、考えを伝え合うことで見方や考え方を広げたり、新たに気付いたりする場面のある授業
- 交流形態の工夫による表現力の育成
(学級全体・グループ・ペアなど)
- 教科等の特性を生かし「見方・考え方」が広がる授業

学びを広げる